



本社・工場

第57期

決算のご報告

平成20年8月21日～平成21年8月20日



 **福島印刷株式会社**

〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地
TEL(076)267-5111(代) FAX(076)267-8065
URL <http://www.fuku.co.jp/>



C906

Communication Agent for Market Driven

私たちは常にお客様と同じ視点に立ち、
エンドユーザーである「市場」を見つめながら
情報発信をお手伝いするパートナーとして、
存在価値を発揮してまいります。
そして、コミュニケーションの背後に生まれる
『長期信頼』を果敢に追い求めます。

福島印刷株式会社

証券コード 7870



ふくしまみちお
代表取締役社長 福島理夫

事業構造 再々構築への 「再挑戦」

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
さて、第57期(平成20年8月21日から平成21年8月20日まで)の決算が終了いたしましたので、ここにご報告申し上げます。
当事業年度におけるわが国経済は、世界的な金融危機の深刻化の影響を受け、輸出や生産の減少によって企業収益が悪化し、また、雇用や所得環境の不安から個人消費も落ち込むなど、景気後退がさらに進みました。
印刷業界におきましては、IT化の進展に伴う紙媒体の減少や景気低迷による

得意先の広告費抑制、原材料価格の高止まり等の影響を受け、厳しい経営環境が続きました。

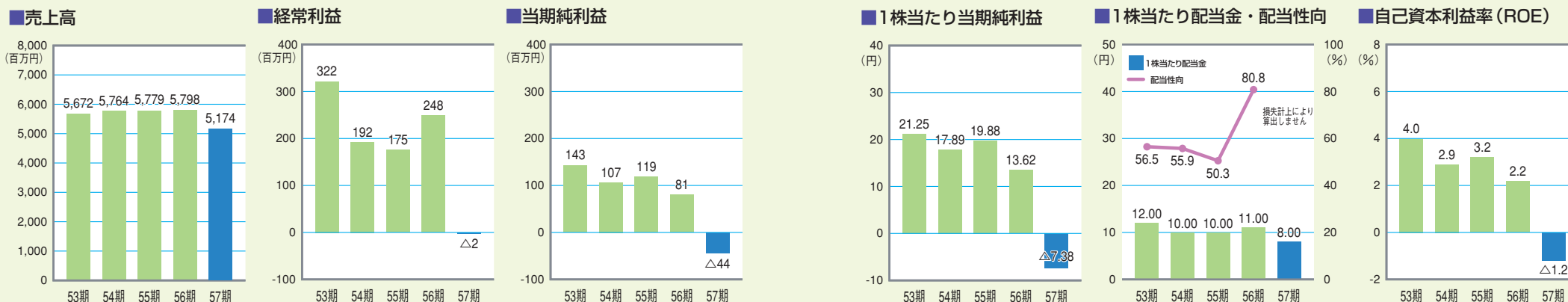
このような状況の中で、当社はビジネスフォーム等印刷物及びDP(データブリント)サービスの製品開発やサービスの充実に取り組み、得意先の販促告知や事務通知業務において、総合的な企画提案型の販売活動を推進してまいりました。また、DPサービス分野では、昨年11月に導入した高速インクジェットプリンタの早期立上げを図り、デザイン版面と通知データを同時印刷するフルカラーDPにより、事前印刷用紙を必要としない郵便はがきトータル発行サービスである新製品「ラテックスバック」の開発に取り組み、販売を開始しました。

設計部門においては営業及び生産部門との連携を緊密に行い、設計力を強化し、つくる前のコストダウンを図る「ポジティブ設計」に取り組んできました。個人情報保護に関しては、個人情報取扱事業者として経営の最重要課題と位置づけ、一層の充実を図るとともに、品質保証力のさらなる強化に取り組んでまいりました。また、当社独自の付加価値指標運営を推進し、分野別及び部門別の収益管理の徹底を図り、コストダウンと収益力の改善活動を展開してまいりました。

しかしながら、未曾有の景気悪化により、得意先各社において事務用消耗品及び広告宣伝費が大幅に抑制されたこと、IT化の進展に伴う需要減少や受注競争の激化による影響を受け、売上高が予想以上に落ち込みました。

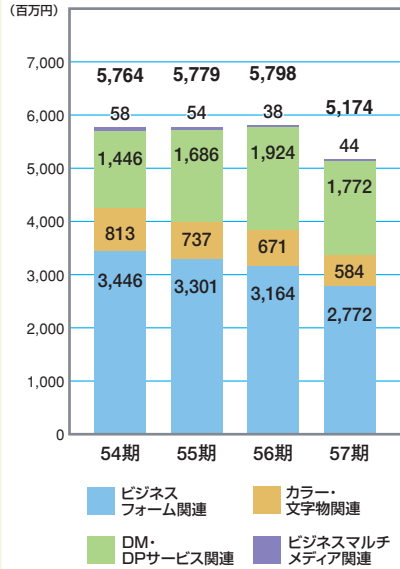
その結果、当事業年度の売上高は、前事業年度を6億24百万円(10.8%)下回る51億74百万円となりました。また、利益面においては、営業利益が18百万円、経常損失が2百万円、当期純損失が44百万円となりました。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも格別のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



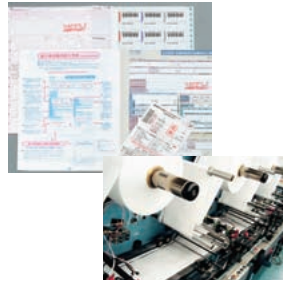
製品別売上高

製品別売上高



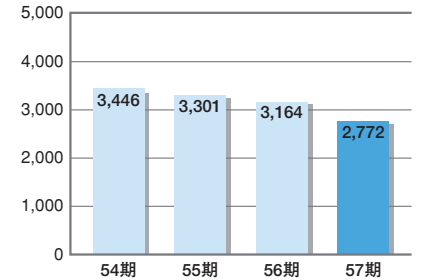
ビジネスフォーム関連

- 複写伝票などの帳票類
- 事務通信
- 情報保護はがき など



ビジネスフォーム関連は、金融機関及び官公庁向け「事務通信DPサービス」が好調に推移したものの、企業のIT化やコスト削減によるビジネスフォーム需要の減少傾向が進み、売上高は前事業年度を3億91百万円(12.4%)下回る27億72百万円となりました。

売上高(単位:百万円)



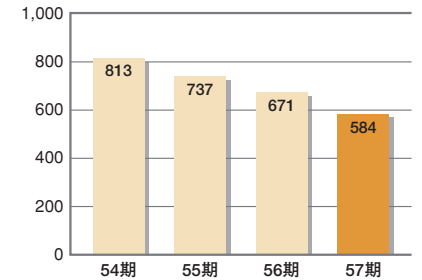
カラー・文字物関連

- 会社案内など広報系印刷物
- カタログなど販促系印刷物
- その他文字物印刷物 など



カラー・文字物等商業印刷分野は、得意先の広告宣伝費用の抑制、競争激化による受注単価の下落などにより減少傾向で推移し、売上高は前事業年度を87百万円(13.0%)下回る5億84百万円となりました。

売上高(単位:百万円)



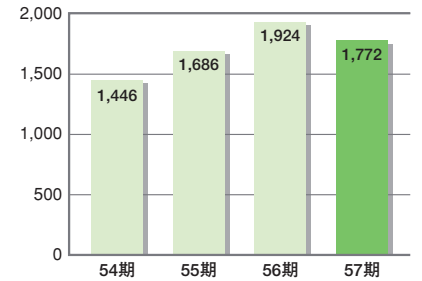
DM・DPサービス関連

- はがき型ダイレクトメール
- 封書型ダイレクトメール
- One to One データプリント など



当社「ならでは」製品の「UD(ユニバーサルデザイン)メール」は、製品ラインナップの強化を図ったものの受注環境の悪化により、売上高が減少に転じました。また、プライバシー保護対応の「あと糊タイプはがきDM」、お客様のお預かりデータを印刷物に出力するDPサービス業務も苦戦いたしました。その結果、売上高は前事業年度を1億51百万円(7.9%)下回る17億72百万円となりました。

売上高(単位:百万円)



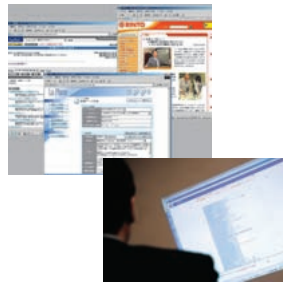
福島印刷の

4分野 シナジー業態

当社はビジネスフォーム(コンピュータ用連続帳票類)を基点に、カラー印刷、ダイレクトメール、事務通信、ビジネスマルチメディアへと事業分野を拡大してまいりました。そして4分野の相乗効果により、当社だからこそできる独自性(=ならでは)を追求しております。

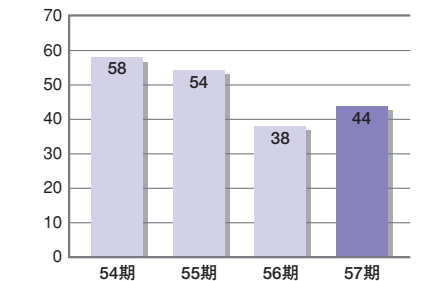
ビジネスマルチメディア関連

- ホームページ
- データベース など



ホームページ、電子カタログ等商品DB(データベース)関連等Web関連製品の企画提案活動を積極的に展開した結果、売上高は前事業年度を6百万円(16.4%)上回る44百万円となりました。

売上高(単位:百万円)



事業構造、再々構築への「再挑戦」

—第58期は、事業環境の変化に対する緊急対応の一年となります—



代表取締役社長 福島 理夫

第58期は、事業環境の変化に対する緊急対応の一年となります。リーマンショックや不況でマイナス地点からのスタートになってしまいましたが、第57期初めに掲げた「事業構造の再々構築」はもちろん継続していきます。3年後に収益性を回復させるには、第58期は好スタートを切ることが重要となります。印刷業界は中小企業が多く、業界地図は必ず塗り変えられます。生き残りをかけたレースはこれから。「失意泰然、得意冷然」。今は失意でも、泰然と考え、泰然と努力してまいります。

トップインタビュー

■第57期を振り返って

第57期は大きな投入不足

これだけ売上が前期を大きく割り込んだ月が続くことは、今までにありませんでした。売上実績が予算の80%台という月の連続。正直しんどいものでした。不況、需要の減少、ペーパーレス、北陸営業部のビジネスフォームの落ち込み、OEM大ロットビジネスフォーム、UDメール、メモタック製品などの都市圏営業部での落ち込み…。それらが全部重なった結果、これまでにない投入不足の期でした。

投入不足では「ならでは」も語れない

一番の反省点は、予算と目標の「混同」です。とにかく成長しなければいけない、そんな風土だったのだと思います。そうやって予算の下ぶれを許し、いつも一回り大きいふるしきを作っていました。放漫経営とそしられても仕方ありません。極論すれば、スケールの成長、量的な成長はなくてもいいと考えています。中身があればいい。自分たちが追求する部分をちゃんと拡大できれば、それ以外の部分は減ってもやむを得ません。「ならでは」追求も、人を切らない経営思想も、投入量が少なくとも急減はありえないという前提で成立していました。しかしそれらは、受注、投入量が確保できて成り立つもので、そうでなければ成立しないのに、ここまでの投入量減を予測した準備ができていませんでした。私自身も成長しなければいけないという想いに取りつかれていなかったか、それが何よりの反省点です。予算と目標を一緒にしてはいけません。今期の予算は、堅実で確実性の高い「必達ライン」として設定していきます。

■第58期経営方針

【利益を頂ける努力と質の追求】

1. 必達売上からの再スタート 53億円
[取り組みの共有と質の向上で財産化取引を積み上げよう]
2. 能力の再々構築
[改革にチャレンジし、人材育成につなげよう]
3. 収益確保必達
[蓄積してきた市場の信頼を死守し、発展させよう]

第57期は「福島印刷の環境元年」

—全社的に環境に対する取り組みが進んでいるのを実感できました—



取締役総務部長 古林 孝之

第57期は当社の環境経営元年と位置づけ、「環境情報の全社共有、他部門との連携強化」「環境負荷半減への道筋をつくる」ことを目指してきました。また、社内報を通じた月次報告書の発行により、当社の環境取り組みや指標の進捗度合いを公開することで、環境情報の共有を図り、全社的に環境に対する取り組みを推進してきました。

■当社の環境指標

- ①「用紙歩留まり率」
- ②「売上高(千円当たり)用紙廃棄物排出量」
- ③「売上高(千円当たり)二酸化炭素排出量」
- ④「売上高(千円当たり)電力使用量」

■当社の環境への主な取り組み

- ◎用紙歩留まり改善の取り組み
- ◎エコカラー(印刷インキの集約化)の取り組み
- ◎有害化学物質の使用量削減、代替物への切替
- ◎グリーン購入法と環境関連への対応
- ◎エコドライブの取り組み
- ◎産業廃棄物削減(リサイクルウエスの利用、廃インキ・廃りの削減)
- ◎氷蓄熱方式エアコンへの更新、夜間電力の有効活用

氷蓄熱方式のマルチエアコンはグリーン購入法調達基準適合商品で、地球にやさしく経済性の高いシステムです。氷蓄熱とは、電力消費の少ない夜間電力を利用して氷蓄熱ユニット(室外機)に氷をつくり、それを解かす熱を利用して冷房などに利用するものです。電力使用量が多い昼間電力を夜間にピークシフトすることができ、契約デマンドに負荷がかからないシステムです。昼間電力を使用する場合に比べて、約50%の電力料削減につながります。現在、第1工場棟・事務棟の一部と第2工場棟すべてがこの空調方式となっています。



氷蓄熱ユニット

PLM システムによる生産前準備の刷新

※1 PLMシステムによる生産前準備の刷新により、営業は設計が提供する情報を享受し、お客様に当社「ならでは商品」を熱く語るできるようになります。また、費用面、納期面、技術面等の様々な制約条件を営業が独力で確認し、誰でもお客様の利用シーンを想定した具体的な提案ができるようになります。また、案件を進行する上で大日程を軸に営業・設計・製造が原価(作業明細)・スケジュールを共有することでコミュニケーションの効率化を図り、営業・設計のコア業務に注力する(考える)時間をつくり出すことができます。

生産前準備システムの機能ポイント

設計・営業の情報共有

- ・設計総責任者の明確化
- ・SFAとのコミュニケーション連携
- ・SFA情報の共有…得意先テーマ、案件、日報、スケジュール
- ・営業への情報提供…文書管理

最適化設計

- ・最適な仕様、フロー、原価の設計支援
- ・仕様、フロー、原価実績をシステムに蓄積
- ・蓄積した過去の実績・教訓を呼び出し次回を改善
- ・標準化(最適化設計の標準パターン登録)
- ・実行支援…原価あんどん、作業前警告

スケジュールリング支援

- ・日程調整 …前工程・後工程一体スケジュール、差立て見える化
- ・大日程 …マイルストーン(大日程)設定、遅延警告
- ・個人スケジュール管理…マイルストーン、作業依頼を個人スケジュールに反映
- ・負荷管理 …依頼・予定山積み

※1

PLM(Product Lifecycle Management)システム
製品ライフサイクル管理: 製造業において、生産工程の効率化、および顧客の求める製品の適時市場投入が行えるように、企画・開発から設計、製造・生産、出荷後のサポートやメンテナンス、製品にかかわるすべてのプロセスを包括的に管理するシステムです。

定額給付金関連印刷物受注のためのプロジェクト

定額給付金は平成20年10月に実施が決定し、翌春の支給を目指して各市町村で検討が進められました。当社では給付申請と決定通知の2業務において、あらかじめ当社「ならでは」サービス『ラテックスパック』による独自の標準仕様を設計。標準化によるわかりやすさ設計と低コスト・リードタイム短縮、誤封入防止の安全設計が評価され、15市町村様の業務受託につながり、はがき総数は20万通となりました。

■「給付申請書」制作ポイント

- ・標準仕様のわかりやすさ設計(案内書・申請書)
- ・送付・返信用封筒の仕様を標準化(まとめ生産によるコスト低減)
- ・出力用データ項目の標準化(開発コスト低減と安全性の確保)
- ・データコントロール封入による誤封入防止

■「決定通知書」制作ポイント

- ・決定通知書のはがき化による郵便料金低減
- ・高速フルカラーIJプリンタ(写真右)による『ラテックスパック』サービスの採用(リードタイム2日の実現、多頻度送付でのコスト低減)
- ・出力用データ項目の標準化(開発コスト低減と安全性の確保)



高速フルカラーIJプリンタ

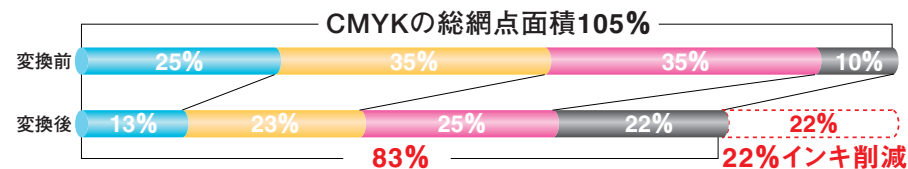
インキの使用量削減のためのプロフィール研究

環境貢献の一環として、カラー印刷やカラーインクジェットプリンタ出力においてインキの使用量を削減する取り組みを行っています。※2 Grey Component Replacement(GCR)技術を高度に利用することで、最大25%程度のインキ削減だけでなく、色再現の安定性、乾燥時間の短縮、見当ズレの軽減にも効果があります。現在、この冬の運用開始に向けて準備を進めているところです。

※2

Grey Component Replacement(GCR)

プロセス印刷ではC(シアン)・M(マゼンタ)・Y(イエロー)の比率が同じ点は、黒またはグレーに置き換えることができます。この部分をK(ブラック)に置き換えることによって網点の比率を下げることで網点総面積を低くすることでインキの使用量が削減できます。



社会貢献型の株主優待制度の導入

株主様に代わって環境保護団体や福祉団体などに寄付する、社会貢献型株主優待制度を導入いたしました。ご優待品の代わりに、※3「ざぶん賞」に寄付することができます。当社が責任を持って、ざぶん賞実行委員会へ受け渡します。寄付先の活動状況は、ホームページなどで順次ご報告させていただきます。

※3

「ざぶん賞」 <http://www.zabun.jp/>

子どもたちから作文や詩を募集し、選ばれた作品にはアーティストが装飾などを加え、芸術作品に仕上げ、本人に贈呈します。「自然や命の大切さについて考えよう」をテーマに、「日本の子どもたちが、自然や命、またお金では買えない大切な何かを理解できる大人になってもらいたい」と立ち上がった社会環境教育活動です。



「ざぶん賞」表彰式



貸借対照表

科目	当事業年度 (平成21年8月20日)	前事業年度 (平成20年8月20日)
【資産の部】		
流動資産	1,991,478	2,259,448
現金及び預金	488,680	741,503
受取手形	286,413	443,979
売掛金	814,370	760,855
製品	95,720	115,232
半製品	22,878	17,913
原材料	53,181	52,748
仕掛品	58,841	59,651
貯蔵品	12,781	12,658
繰延税金資産	57,223	51,935
その他	101,716	4,054
貸倒引当金	△ 330	△ 1,084
固定資産	4,549,152	4,286,289
有形固定資産	4,306,122	4,049,523
建物	1,781,662	1,868,182
構築物	45,513	49,053
機械及び装置	991,205	1,141,751
車両運搬具	12,065	13,276
工具器具備品	9,491	12,153
土地	965,106	965,106
リース資産	501,077	—
無形固定資産	25,768	5,922
ソフトウェア	802	1,504
リース資産	20,548	—
その他	4,417	4,417
投資その他の資産	217,261	230,843
投資有価証券	80,409	87,504
出資	2,670	2,670
破産・更生債権等	6,840	5,668
長期前払費用	14,139	16,541
前払年金費用	—	1,950
役員年金	57,337	57,060
その他	62,704	65,117
貸倒引当金	△ 6,840	△ 5,668
資産合計	6,540,630	6,545,738

単位:千円

科目	当事業年度 (平成21年8月20日)	前事業年度 (平成20年8月20日)
【負債の部】		
流動負債	1,470,937	1,461,593
買掛金	157,869	196,336
短期借入金	520,000	370,000
1年以内返済予定の長期借入金	355,920	355,920
リース債務	98,660	—
未払金	42,636	109,406
未払費用	224,891	229,399
未払法人税等	1,093	108,266
賞与引当金	65,809	76,044
預り金	3,056	3,220
役員賞与引当金	1,000	13,000
固定負債	1,469,640	1,376,976
長期借入金	911,500	1,267,420
リース債務	453,841	—
繰延税金負債	41,267	52,248
退職給付引当金	6,832	—
役員退職慰労引当金	56,200	57,308
負債合計	2,940,577	2,838,570
【純資産の部】		
株主資本	3,609,756	3,714,017
資本金	460,000	460,000
資本剰余金	285,200	285,200
資本準備金	285,200	285,200
利益剰余金	2,864,579	2,968,839
利益準備金	96,200	96,200
その他利益剰余金	2,768,379	2,872,639
固定資産圧縮積立金	172,153	172,153
別途積立金	2,625,000	2,605,000
繰越利益剰余金	△ 28,774	95,486
自己株式	△ 22	△ 22
評価・換算差額等	△ 9,703	△ 6,849
その他有価証券評価差額金	△ 9,703	△ 6,849
純資産合計	3,600,053	3,707,167
負債及び純資産合計	6,540,630	6,545,738

(記載金額は千円未満切捨)

損益計算書

科目	当事業年度 (自平成20年8月21日 至平成21年8月20日)	前事業年度 (自平成19年8月21日 至平成20年8月20日)
売上高	5,174,148	5,798,981
売上原価	3,932,992	4,221,893
売上総利益	1,241,156	1,577,087
販売費及び一般管理費	1,222,850	1,312,020
営業利益	18,306	265,067
営業外収益	—	—
受取利息及び配当金	2,115	2,518
その他	12,623	17,863
営業外費用	—	—
支払利息	35,399	36,601
その他	451	529
経常利益	△ 2,805	248,317
特別利益	—	881
特別損失	—	—
固定資産除却損	9,081	27,124
固定資産取壊費用	5,280	24,383
投資有価証券評価損	1,052	—
減損損失	33,682	51,507
税引前当期純利益	△ 51,901	197,691
法人税、住民税及び事業税	5,448	119,000
法人税等調整額	△ 13,088	△ 28,250
過年度法人税等	—	25,224
当期純利益	△ 44,261	81,717

単位:千円

(記載金額は千円未満切捨)

■ 株主資本等変動計算書

(平成20年8月21日～平成21年8月20日)

単位:千円

	株主資本								評価・換算 差額等
	資本金	資本 剰余金 準備金	利益剰余金			自己株式	株主資本 合計	その他 有価証券 評価差額金	
			利益 準備金	固定資産 圧縮積立金	別途 積立金				
平成20年8月20日残高	460,000	285,200	96,200	172,153	2,605,000	95,486	△ 22	3,714,017	△ 6,849
事業年度中の変動額									
剰余金の配当						△ 59,999		△ 59,999	
別途積立金の積立					20,000	△ 20,000		—	
当期純利益						△ 44,261		△ 44,261	
自己株式の取得									
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額(純額)									△ 2,854
事業年度中の変動額合計	—	—	—	—	20,000	△ 124,260	—	△ 104,260	△ 2,854
平成21年8月20日残高	460,000	285,200	96,200	172,153	2,625,000	△ 28,774	△ 22	3,609,756	△ 9,703

(記載金額は千円未満切捨)

■ キャッシュ・フロー計算書

単位:千円

科 目	当事業年度 (自平成20年8月21日 至平成21年8月20日)	前事業年度 (自平成19年8月21日 至平成20年8月20日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	312,842	617,688
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 245,630	△ 60,460
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 318,934	△ 415,746
現金及び現金同等物の増減額	△ 251,722	141,481
現金及び現金同等物の期首残高	617,383	475,902
現金及び現金同等物の期末残高	365,660	617,383

(記載金額は千円未満切捨)

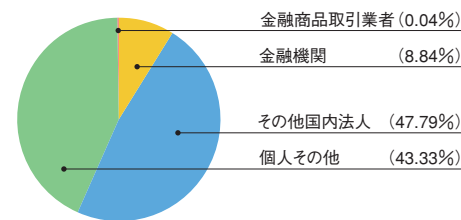
■ 株式の状況

- ①発行可能株式数 24,000,000株
- ②発行済株式の総数 6,000,000株
- ③株主数 1,931名
- ④大株主

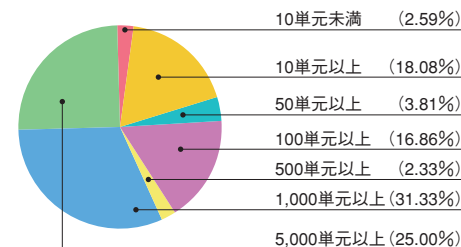
株主名	当社への出資状況	
	所有株式数(千株)	出資比率(%)
有限会社 アジリスト	1,500	25.00
名古屋中小企業投資育成株式会社	473	7.89
北国総合リース株式会社	304	5.07
株式会社北国銀行	280	4.67
福島島茂一	272	4.53
福島印刷従業員持株会	220	3.68
山崎久子	120	2.00
三菱製紙販売株式会社	110	1.83
三菱製紙株式会社	100	1.67
株式会社ダイトコーポレーション	80	1.33

■ 株式の分布状況

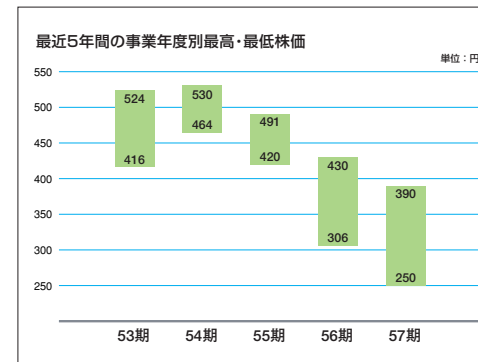
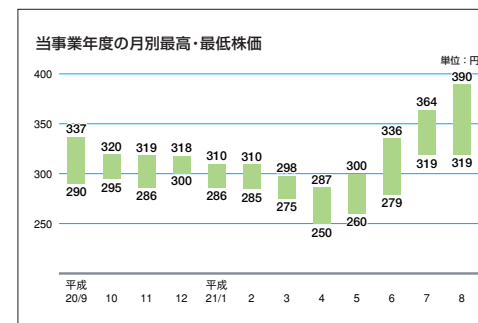
所有者別(株式数比率)



所有単元数別(株式数比率)



■ 株価の推移



(注)名古屋証券取引所における高値・安値を表示しております。当事業年度の月別最高・最低株価は、毎月1日より月末のものであります。



(前列左より) 下畠、福島、館
(後列左より) 戸田、古林、松谷、岩木

■ 役員 (平成21年11月18日現在)

代表取締役社長	福島 理夫	取締役	古林 孝之
専務取締役	下畠 学	取締役	戸田 綾一
常務取締役	館 芳昭	常勤監査役	松谷 裕勝
		監査役	岩木 弘勝

■ 会社の概要

商号	福島印刷株式会社
英文名	FUKUSHIMA PRINTING CO.,LTD.
本店所在地	〒920-0357 金沢市佐奇森町ル6番地 TEL (076) 267-5111(代)
設立	昭和27年9月10日
資本金	4億6,000万円
従業員数	386名
事業所	本社及び工場 金沢市佐奇森町ル6番地 東京営業部 東京都中央区日本橋本町4丁目5番14号 入江ビル6F 富山営業所 富山市上袋715番地1 福井営業所 福井市問屋町3丁目811番地 大阪営業所 大阪市中央区平野町3丁目3番8号 辻梅ビル3F 名古屋営業所 名古屋市中区金山1丁目2番2号 クマダ第2ビル5F

事業年度 8月21日から翌年8月20日まで
 定時株主総会 11月
 基準日 定時株主総会 8月20日
 期末配当 8月20日
 中間配当 2月20日
 その他必要があるときは、予め公告して定めた日
 株主名簿管理人 東京都港区芝三丁目33番1号
 中央三井信託銀行株式会社

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル)

取次事務は中央三井信託銀行株式会社の全国各支店ならびに日本証券代行株式会社の本店及び全国各支店で行っております。

●住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について

株主様の口座のある証券会社にお申出ください。
 なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

●未払配当金の支払について

株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。

単元株式数 100株
 上場証券取引所 名古屋証券取引所
 公告方法 電子公告により当社ホームページ (<http://www.fuku.co.jp/>) に掲載いたします。

ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合の公告方法は、日本経済新聞に掲載する方法とします。

株主優待制度 8月20日基準日現在1,000株以上の株主を対象に、自社指定の株主優待を、ご希望に応じてお選びいただけます。

平成21年11月発送予定。



金沢五郎島金時



「四十萬谷本舗」
かぶり寿し



能登和牛すき焼き用肉



「金澤鳥糞」
鳥骨鶏かすていら



ざぶん賞へ寄付
詳細は8ページをご覧ください